

平成26年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	神崎市立千代田中部小学校		
2 所在地	神崎市千代田町直鳥 15 番地 1		
3 校長名	梶原 紳一		
4 学級数 児童生徒数	12学級 236人	5 実施学年 児童生徒数	4年 43人

6 取組のねらい

高齢者の立場にたって、今の自分にできることはどんなことがあるか。自分が注意していかなければいけないことは何であるかを考えるために、高齢者の疑似体験を行う。また、体験をもとにしながら、特別養護老人ホームへの訪問を行い、実際のふれあいを通してさらにUDについて考える機会とする。

7 取組の実際

(1) 高齢者疑似体験

神崎市社会福祉協議会の協力と指導の下、以下の高齢者の疑似体験を行った。

- ① 加重おもりやサポーター等をつけての歩行疑似体験
- ② 特殊めがね、耳栓を着用しての歩行疑似体験
- ③ 車いすの疑似体験



① おもりをつけた疑似体験の様子



② 特殊めがね、耳栓着用体験の様子



③ 車いす体験の様子

児童は、疑似体験を通して、体を自由に動かせない不便さを学んでいた。体験を通す中で、どのような点を注意すればよいのか児童一人一人が考えることができた。

また、社会福祉協議会の方々の話も熱心に聞きながら、今後の訪問に向けた自分たちの活動の見直しを行ったり、体育館の施設を確認したりしていた。

(2) こすもす苑デーサービスセンター訪問

高齢者の方々とのふれあいを通して、実際の高齢者の方々の声を聞きながら、児童一人一人がこれから自分のできることについて考える機会とした。



交流の様子



交流の様子

交流をする中で児童は、高齢者の方々の笑顔を見たり、高齢者と言葉を交わしたりする中で相手の気持ちを考えることの大切さに気づいていた。また、施設のつくりや生活の様子を見る中で、UDの大切さについても考えることができた。

8 取組の成果と課題

(1) 成果

- 訪問を行うだけではなく、実際の疑似体験を取り入れたことにより、自分よがりではなく、高齢者の立場に立って考えることができるようになった。
- 実際に高齢者の方々と接したことで、UDの大切さについて実感としてとらえることができていた。
- 体験活動を中心に学習を進めたことにより、知識ではなく体験的にとらえさせることができ、より実感の伴った学習となった。

(2) 課題

- 児童がUDについて学んだ後、自分が生活している学校を見直すとUD化されているとはいいがたい状況である。しかし、児童の意欲で解決できる問題ではないため、学んだ成果を学校の中でいかに生かしていけるのかを考えた学習計画が必要である。
- 祖母、祖父との同居も減ってきている中、日常的に学んだことを生かそうとする意欲をいかに持続させることができるのか。日頃より、児童がUDを意識して生活を送ろうとする取組が必要である。